東北　三陸沿岸の Iron Road を訪ねる 震災後初めて　三陸沿岸を再訪　　2014.6.7-6.9

4. 久慈から八戸へ　車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜　2014.6.9.

八戸線車窓から眺める砂鉄浜　洋野町有家海岸 ＆ 砂鉄浜　八戸　種差海岸

６月９日　東北　三陸沿岸の Iron Road Walk ３日目（最終日）相変わらずの霧雨
久慈から八戸へ　JR 八戸線沿線の砂鉄浜を訪ねました

4.1. 砂鉄の宝庫　八戸・久慈周辺の砂鉄　概要
その周辺の沿岸には砂鉄が堆積する砂鉄浜続く
4.2. 八戸線 車窓から眺める砂鉄浜　洋野町有家海岸.
4.3. 砂鉄浜　八戸　種差海岸を歩く

9:35　普代から三陸鉄道で　霧雨の久慈駅着　　三陸沿岸 Walk 3 日目
久慈のたたら館はすでになく、江戸時代八戸藩南部の鉄素材の重要な生産地「大野鉄山」の地で、 砂鉄鉱床の露頭を見られるという内陸部の「洋野町大野」へ行きたかったのですが、どうも無理。　　一つ列車を逃すと、次の列車は 12:53 で、八戸線沿線の砂鉄浜に降り立てない。神戸まで帰れない。 また、旧たたら館資料の展示があると聞く民俗資料館や砂鉄浜の侍浜海岸などへ霧雨の中を行くには ちょっとアクセスが心もとない。
今、八戸線に出れば、9 時47分八戸行の列車に間に合うので、今回は残念ながら久慈 Walk を あきらめ、そのまま八戸へ向かうことにしました。

へ理屈は別にして、久慈から八戸にかけては、日本でも有数の砂鉄の産地であり、江戸時代　南部・八戸藩の南部鉄器製造を支えた地であり、浜にも大量に砂鉄が堆積すると聞く。 そんな砂鉄浜は、ぜひ見ておきたい。
以前乗車した時の記憶はないが、久慈から八戸へは　砂鉄を埋蔵する鉱床が南北に延びる内陸部から沿岸部へ　広い海岸段丘が続き、海に接する浜が点々と連なっている。 車窓からはそんな砂鉄浜が見え、浜に堆積した砂鉄が見えるはずだと。
　また、名前だけは何度か眼にした八戸の種差海岸　　今度は是非この種差海岸の砂鉄浜も歩いてみたい。

八戸まで出れば、連絡悪くても新幹線八戸駅へは何とかなると。
そうと決まるとあまり時間がない。 20 数年前 「Iron Road ・和鉄の道」の名前が浮かんだ久慈の駅前の写真を撮って、そのまま八戸線の列車に乗り込み、久慈を後にして　八戸へ。
海岸線を走る沿線にいれば、風来坊　どこで降りてもまたすぐに列車に戻れるので、気楽である。

岩手県側に属する久慈と青森県側に属する八戸　どちらも「南部」、
でも　明治の廃藩置県で両県に分断された

１９９２年に山田町の上村遺跡で、８世紀後半と見られる製鉄遺跡が発見されて、三陸地方の古代製鉄が 注目されるようになり、　釜石から宮古にかけての三陸沿岸では、古代の製鉄遺跡が数多く見つかっている。

しかし　埋文や資料館などへ直接訪れなかったこともあるのですが、さらに北の普代そして　久慈・八戸地域では古代製鉄関連について、ほとんど聞けなかった。

特に製鉄原料となる大量の砂鉄があるハ戸・久慈地域で、製鉄業が盛んになるのは江戸時代であり、同 じ三陸といっても、釜石から宮古の地域と久慈・八戸では　地形的な問題や古代中央へのつながり方の相違などによって、製鉄技術の伝播の様相が違うようと旅の中で思えてきて、気にかかっている。この地域の暮らしの中で、鉄の需要がどうだったのか?

なども重要な鍵でしょうが、今回残念ながら今回調べられなかった。

また、「南部鉄」とはよく聞くのですが、全国的に広がりを持つのは　どうも南部の特産として、南部盛岡藩・八戸藩が奨励した江戸時代以降であると聞く。

久慈の旧たたら館が新しくなった久慈市歴史民俗資料館や江戸時代　繁栄した大野鉄山がある久慈の内陸部へ行けばもっと　クリアーになるのでしょうが、次回への宿題と。

また、今陸奥・青森県に属する八戸はもともと南部の地域であり、私にとっては今も青森と岩手県の境が ごっちゃになる。

イメージ的には北上山地から流れ出る北上川が南に流れる岩手県　そして　北に馬淵川・新井田川が流れる地域が青森県とわかっているのですが、かつてはどちらも「南部」そして　この川の流れもそう簡単にはなっていない。

この八戸線が走る沿岸部も岩手県の三陸沿岸の久慈から、県境を越えて青森県　陸奥の八戸へ伸びているが、 沿岸部では境する大きな山も川もなく、でもどちらも俗称的には[南部]であるという。

八戸が、北の津軽に支配をけるけるようになるのは、明治の初年　戊辰戦争で　官軍側の津軽藩に　幕府側に加わっていた南部藩が負け、背反地検の際に南部藩の北部一部が青森県に編入されたという。

元々南部藩発祥地は北部の南部町であり、盛岡は後に藩の居城を移して中心になった場所である。

八戸・久慈についていうと　今も　文化的には八戸・久慈はやはり同じ「南部」の文化である。

まだ　まだ　面白い三陸沿岸である

1．砂鉄の宝庫　久慈・八戸周辺の砂鉄　概要

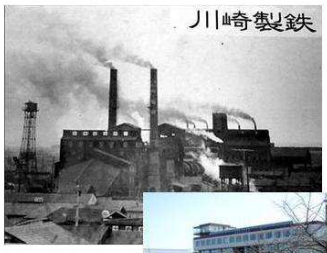
日本有数の砂鉄の宝庫「久慈・八戸」 その周辺海岸部は海岸隆起によって海底が持ち上がってできた広大な海岸段丘　平坦地形が広がっている。 ここでは北上山地から流れ出た砂鉄が海底に堆積し、その海底が隆起して豊富な砂鉄資源を形成し、沿岸の浜には砂鉄が堆積する砂鉄浜が点々と続く。

ここでは　古くから　この広大な台地は牧場として「南部馬」を育ててきた。 また、江戸時代には　この豊富な砂鉄資源を使って　たたら製鉄が栄え、名産「南部鉄・南部鉄器」の一大産業が興り、その後の製鉄業繁栄をもたらしてゆく。

昭和の時代には　この豊富な砂鉄資源を使って、先進的な製鉄技術である海綿鉄の量産工場　川崎製鉄久慈工場が久慈に建設され、 銑鋼一貫の大製鉄所時代が花開く昭和40年代まで生産が続けられた地であることも忘れてはならない。

久慈周辺は砂鉄(ドバ・潟鉄鉱)の大産地　この砂鉄を利用した近代的な海綿鉄の量産
この砂鉄を使って昭和40年代まで海綿鉄を製造した川崎製鉄久慈工場

久慈周辺は砂鉄(ドバ・潟鉄鉱)の大産地
この砂鉄を使って昭和40年代まで近代的な海綿鉄の量産製造した川崎製鉄久慈工場があった小久慈地区。
昭和42年(1967年)川崎製鉄久慈工場閉鎖後、その工場跡地に久慈市役所が昭和49年(1979年)に移設され、
それから40年、工場跡地は行政、文化、ショッピングの新開地・川崎町として発展し現在に至っている。



2. 八戸線 車窓から眺める「砂鉄浜」　洋野町有家海岸周辺

久慈よりJR八戸線
　久慈川渡って海を指す　…　久慈
　　一番北の海女さんに　…　陸中夏井
　　砂鉄に琥珀も掘った跡　…　侍浜

山より下り来て中野より　…　陸中中野、有家
　海岸段丘の上部沿い　…　陸中八木、宿戸
　　洋野町中心種市は　…　玉川、種市
　　十代目柏戸出た町に　…　平内、角の浜

<JR 八戸線沿岸の砂鉄や海岸段丘を織り込んだ鉄道唱歌（部分） 現代社会教育鐵道唱歌 北リアス・八戸篇（部分）より>

砂鉄が堆積した浜が続く JR 八戸線　洋野市　有家駅周辺の海岸

北三陸の砂鉄浜　　JR 八戸線　洋野町有家海岸

3. 砂鉄浜　八戸　種差海岸を歩く　砂鉄浜　白浜・大須賀浜から種差海岸の北端の岬葦毛崎へ

10:35　洋野町種市駅着　三陸沿岸　岩手県の最北部

「南部もぐり」潜水技術とウニ漁で有名な街で　種市高校にはこの「南部もぐり」を継承し、工業系の潜水技術を習得できる学科海洋開発科がある。

平内駅・角の浜駅を過ぎると青森県階上駅で　八戸はもうすぐであるが、 八戸線は種市から北では海岸より少し陸地側を走るので　沿岸の浜はよく見えない。

10:46　階上駅着

青森県三戸郡階上町　大きな山を越えるでもなく　川を渡るでもなく　ここからはもう　青森県　ウニいちご煮の里の案内板が見える。

岩手/青森の県境　階上岳（岩手県では種市岳と呼ぶ）

10:35　種市駅　岩手県三陸沿岸最北部

洋野町種市
「南部もぐり」潜水技術とウニ漁で有名な街で
種市高校にはこの「南部もぐり」を継承し、工業系の潜水技術を習得できる学科海洋開発科がある

種市の平内駅・角の浜駅を過ぎると青森県階上駅で　八戸はもうすぐである

八戸線は種市から北では　海岸より少し陸地側を走るので　沿岸の浜はよく見えない

10:46　階上駅　青森県三戸郡階上町
ここからはもう　青森県
ウニいちご煮の里の案内板が見える

階上駅の次は大蛇駅 10:57 着

そしてその次は八戸市に入って金浜駅　海岸線が見えないのでよくわからないが、「大蛇」「金浜」と続くと製鉄関連地名なのか・・と思えてくる。

でも、「大蛇」は古くからある地名をそのまま駅に。 でも　由来はよくわからないそうだ。「金浜」と聞くと砂鉄浜に違いない。

でも　浜の様子がよくわからず、どこで下車しようかと迷いながら、種差海岸の「白浜駅」で下車。

（当初は鮫駅まで行って　バスで種差海岸に戻るつもりでしたが・・・・）

陸奥白浜駅で下車して　種差海岸の砂鉄浜　白浜・大須賀浜を歩く

大蛇駅をでると岩手県三陸沿岸から青森県陸奥沿岸に入るが、特にヶ市議が変わる出なく、県境を越えたとの思いはなし。そして、金浜駅をでると　まもなく緑の海浜公園によく整備された海岸線が見えてきて、八戸の観光地「種差海岸」の一角に入ったと。 鮫駅までゆかず、近くで降りて　浜を歩いてみようと決める。

11:10 陸奥白浜駅下車　　駅は無人駅で駅舎もなく、細長いプラットホームが一本あるだけ。浜も見えず。

一瞬戸惑ったが、ホームのすぐ下に種差海岸遊歩道案内の看板が浜へ降りてゆく道を教えてくれた。

浜に砂鉄があるだろうか・・・・・　　駅を出て　踏切を渡ると正面向こうに広い砂浜が見えてきた。

種差海岸の砂鉄浜　白浜・大須賀浜

浜へ降りるとうっすら白砂に砂鉄が混じって見える。 砂鉄はあまり多くはないが、美しい砂鉄浜。 小さな川が流れ込む河口周辺の砂浜では　幾重にも重なった砂鉄の文様が見られ、また、陸側には海岸段丘の崖に沿って美しい松林が続き、美しい風景を作っていました。 長い大須賀の浜から、松林の中にある遊歩道へ上がって　さらに北　種差海岸北端の葦毛崎へ。

大須賀浜の北端から　観光道路を北へ葦毛崎へ

種差海岸の絶景ポイント 葦毛崎 周辺

また、土砂降りになりましたが、観光道路を歩きだして、
30 分ほど 散策路を下ってゆくと数々の草花が咲く海岸。
岩礁の浜の向こうに霧雨に煙る葦毛崎の岬。
ちらほら 黄色のニッコウキスゲも咲き始めていました。
満開の時には素晴らしい景色になるのだろう。

岩礁が続く美しい景色をたのしみながら、小さな尾根を乗り越すと種差海岸の北端　葦毛崎でした。

12:03　葦毛崎到着。

雨がきつく　視界も開けないので、　葦毛崎の展望台まで行くのをやめ、そのまま鮫駅へ向かう。

途中バスが来ないかと振り返りつつ歩きましたが、ダメ。　もう鮫駅まで歩く覚悟を決めました。

12:03　土砂降りの雨　種差海岸北端の岬　葦毛崎

土砂降りの雨の中　葦毛崎を回り込んで西側の沿岸を鮫駅目指して下ってゆく

12:25　岬を回り込んで　街並みが続くところまでに下りてくる。 道脇に八戸線の線路も見え、　 八戸線もこの岬を並行して回り込んできたとわかる。　どこまで歩くのかとちょっと心配になっていましたが、ウミネコの繁殖地蕪島　そして八戸の港が遠望でき、八戸線鮫駅も近いと知れ、やれやれです。

12:40　鮫駅到着

駅前には大きく口を開いた鮫のモニュメントが出迎えてくれましたが、ひっそり静かな駅前。

13:40 まで、八戸行の列車がない。食事でもと鮫街の通りに出ると十字路の際にバス亭があり、13 時過ぎに　八戸行のバスが来ると教えてもらって、そのままバスに乗り込んで八戸の市街地へ。 八戸の中心街でバスを乗り継いで　約 40 分ほどで八戸駅でした。

14:00 八戸駅着　 これで今日　神戸まで帰りつけると…。

八戸は是川縄文遺跡や風張縄文遺跡などを訪ねたり、青森の帰りにも立ち寄ったことがある知った街並み。

でも　名前は知っていても　行ったことがなかった種差海岸。

パンフレットで見た種市岳や種差海岸の美しい景色に今回は是非立ち寄りたいと。

土砂降りの雨になりましたが、それはそれで初めて種差海岸を歩けてラッキー。

駅前の食堂ビルに入って遅い昼飯。 霧雨の降りしきる街を眺めながら、長かった今日一日　八戸線に乗っての砂鉄浜 walk を振り返る。

20 数年前にこの八戸線にも乗ったのですが、全く記憶なし。

八戸線沿いの砂鉄浜　そしてそれらを形成した海岸段丘の遠い太古の歴史も知って、また、新しい三陸沿岸の　Iron Road のイメージも。

今回の旅ではどうしても行けず、次回廻しにした江戸期南部鉄を支えた内陸部の九戸のたたらや洋野町大野の大野鉄山。 是非　もう一度　久慈・八戸へと。

今回は 3 日間のフルスピード三陸沿岸 Iron Road の旅　 結局 3 日とも霧雨の中の訪問でしたが、これも三陸らしい。

やっと来れた震災後の三陸沿岸の Iron road　でした。

土砂降りの駅前のビルで 「ビール　もう一杯」と満足感にしたって、新幹線へ。

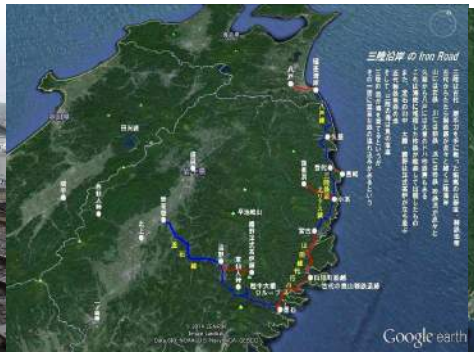
三陸沿岸　街そして生活復興はまだ　これから。 今回垣間見れた三陸沿岸の姿はしっかり焼き付けた。忘れない。

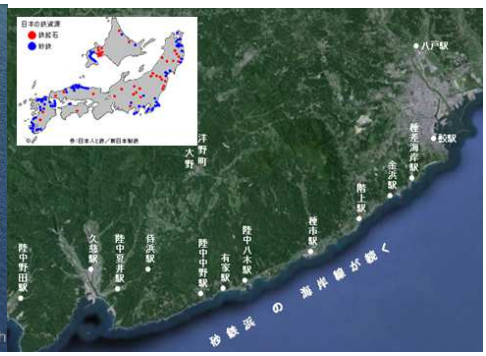
次に訪れた時には　さらに活力のある人々の笑顔・生活が見られることを願って、これからも忘れず、応援してゆきたい。

2014.6.9.　 15:06 八戸駅発　東北新幹線　はやぶさ 24 号に乗り込んで　 by Mutsu Nakanishi

北三陸沿岸の砂鉄浜　JR 八戸線　有家海岸　　2014.6.9.

八戸種差海岸の砂鉄浜　大須賀・白浜　　20147.6.9.





【 引用・転記・参考資料 】

1. 田村栄一郎著「みちのくの砂鉄いまいずこ」
2. 久慈市編　ガイドブック「大地と自然の久慈」
3. 北上高地の砂鉄　　http://www.bunka.pref.iwate.jp/rekishi/kouzan/kouzan01_02.html
4. インターネット検索　　一部写真　北三陸沿岸のたたらの解説につかわせていただきました

【和鉄の道・Iron Road　by Mutsu Nakanishi 】

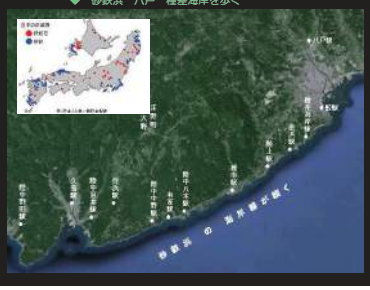
1. 「閃光」と「肌光」　　－ 鉄への思い －
2. 田舎なれども南部の国は西も東も金の山－ 岩手県南部　蝦夷の鉄　北上山地　大鎚・釜石へ　2002.10
3. 岩手県北上川流域の製鉄地帯　一関博 物館　－蝦夷の蕨手刀と 日本刀のルーツ　舞草刀 －　2001.10.
4. 蝦夷の鉄・東北　和鉄の道　　東北地方　和鉄の 道　9編　取りまとめ　2004.1.

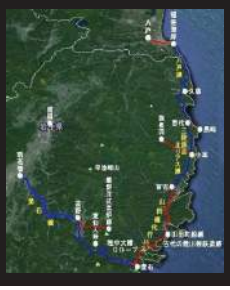
東北　三陸沿岸の Iron Road を訪ねる　震災後初めて　三陸沿岸を再訪　2014.6.7-6.9

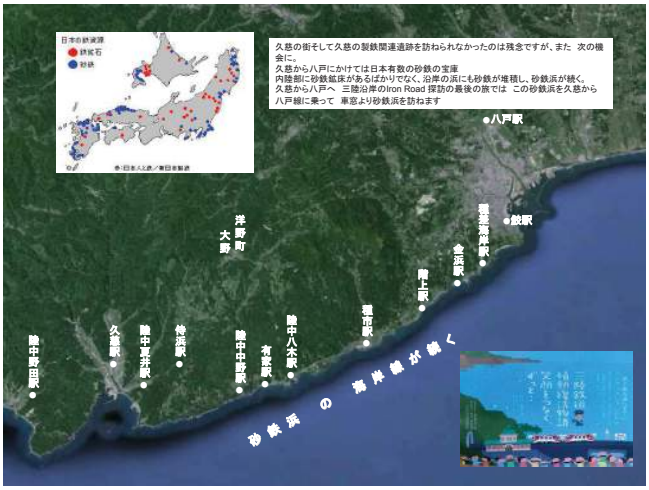
1. 世界産業遺産登録 を目指す 日本近代製鉄発祥の地「釜石」　近代製鉄発祥の地「橋野・大橋鉄鉱山」を訪ねる　2014.6.7.
2. 発掘中の古代の製鉄遺跡　山田町船越「焼山遺跡」発掘現場を訪ねる　蝦夷の鉄生産工房地の謎を解くかも??　2014.6.8.
3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 &普代・黒崎を訪ねる　龍泉洞・北緯40度地球村　普代　2014.6.7.&6.8
4. 久慈から八戸へ　車窓より眺める久慈・周辺の砂鉄浜　有家海岸 ＆ 種差海岸　2014.6.9.
5. 震災後3年 生活復興を進める三陸沿岸の街の今 三陸の街の今　コメントなしのPhoto集　2014.6.7.~6.9.

4. 久慈から八戸へ　車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜　2014.6.9.

◆ 八戸線車窓から眺める砂鉄浜　洋野町有家海岸
◆ 砂鉄浜　八戸　種差海岸を歩く







東北　三陸沿岸の Iron Road を訪ねる　震災後初めて　三陸沿岸を再訪　2014.6.7-6.9

4. 久慈から八戸へ　車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜　2014.6.9.

・ 八戸線　久慈　9:47発八戸行　　11:06　種差海岸　着
　車窓より　インターネットで調べた三陸海岸　中野・有家駅周辺の砂鉄浜を眺める
・ 種差海岸の砂鉄浜を歩いて、浜からバスで鮫駅または八戸駅へ
　実際にはバス・列車連絡悪く、種差海岸からwalk　13:00 鮫駅 まで出て、
　鮫駅から　市内バスで八戸駅へ出ました。　八戸着 14:00
・新幹線　八戸駅15:06　はやぶさ24号で東京へ

三陸沿岸Walk 3日目午後　2014.6.9.午後

9:35　　著代から三陸鉄道で　露西の久慈駅着
久慈のたたら館はすでになく、江戸時代　八戸藩南部の鉄の素材の重要な生産地であった「大野鉄山」の地、ならびに大野にある砂鉄鉱床の露頭をみたかったのですが、どうしても列車の連絡が取れず。
また、次の列車は12:53で、久慈滞在約2時間では旧たたら館資料の展示があると聞く民俗資料館や砂鉄浜の侍浜海岸など、霧雨の中行くにはちょっとアクセスが心もとない。

9時47分八戸行の列車に間に合うので、今回は残念ながら久慈Walkをあきらめ、そのまま八戸へ向かうことにした。

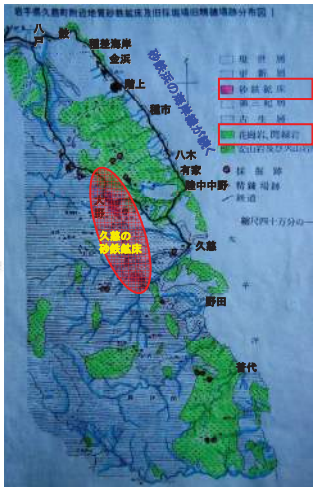
この八戸線は三陸沿岸に沿って八戸へ向かうので、浜が見えるので、浜に堆積した砂鉄が見えるはず。
日本でも有数の砂鉄の産地　久慈から八戸にかけての砂鉄浜はぜひ見ておきたい。
また、八戸の種差海岸の砂鉄浜をすこし　歩いてみたい。
八戸まで出れば、連絡悪くても新幹線八戸駅へは何とかなる。

そうと決まるとあまり時間がない。久慈の駅の外に出て、20数年前　「Iron Road・和鉄の道」の名前が浮かんだ久慈の駅前の写真を撮って、八戸線の列車に乗り込む。

この沿線にいれば、風来坊　どこで降りてもまたすぐに列車に戻れるので、気楽である。

砂鉄の宝庫　八戸・久慈周辺の砂鉄　概要

その周辺の沿岸には砂鉄が堆積する砂鉄浜続く

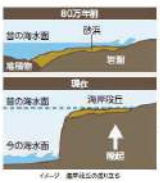


砂鉄資源そして南部馬を育てた久慈・八戸周辺海岸部の平坦な地形

海岸隆起によって海底が持ち上がってできた海岸段丘

久慈周辺の海岸段丘の分布図

侍浜町や三崎半島をはじめ、海岸部にはなだらかな台地が広がり、古くから牧畜に利用されてきました。この地形は、数十万年前の海底が隆起して、高台に平坦な地形が残されたものです。



隆起の痕跡、海岸段丘

波の浸食により平らになった海底が、隆起することで台地上に平坦な地形が生まれます。これを繰り返して作られた階段状の地形が海岸段丘です。海岸段丘上には貝塚や縄文遺跡などが残されています。

■海岸段丘に関する観察ポイント
p.18　金取崎
p.23　川崎製鉄元山砂鉄採掘場跡

北上山地から流れ出た砂鉄が海底に堆積
その海底が隆起し、豊富な砂鉄資源を形成

海底の隆起が作った砂鉄資源

元山砂鉄採掘場跡は川崎製鉄久慈工場が製鉄の原料となる砂鉄を採掘した場所です。この採掘場の砂鉄はドバ(※1)といい海底の隆起(※2)により誕生した砂鉄鉱床です。また久慈工場はたたら製鉄の歴史に残る製鉄技術を導入した先進的な工場でした。

海底の隆起が作った砂鉄鉱床

元山の砂鉄層は、標高約250mの高台にあります。この砂鉄層は、かつて海底に堆積した砂鉄が隆起により山の上に持ち上げられたものです（海底堆のある地形は海岸段丘といいます）。
その埋蔵量は、国内最大級と言われています。この砂鉄鉱床は三陸海岸の隆起が生んだ大地の遺産なのです。

久慈周辺の海岸段丘の分布図

かつて訪ねたことがある久慈市の製鉄遺跡関連地

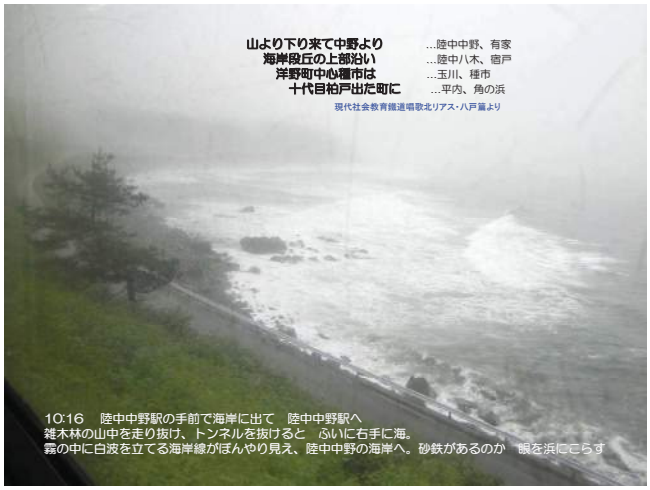
久慈周辺は砂鉄(ドバ・渇鉄鉱)の大産地　この砂鉄を利用した近代的な海綿鉄の量産
この砂鉄を使って昭和40年代まで海綿鉄を製造した川崎製鉄久慈工場

久慈周辺は砂鉄(ドバ・渇鉄鉱)の大産地
この砂鉄を使って昭和40年代まで近代的な海綿鉄の量産製造した川崎製鉄久慈工場があった小久慈地区。
昭和42年(1967年)川崎製鉄久慈工場閉鎖後、その工場跡地に久慈市役所が昭和49年(1979年)に移設され、
それから40年、工場跡地は行政、文化、ショッピングの新開地・川崎町として発展し現在に至っている。

4. 久慈から八戸へ　車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜　2014.6.9.

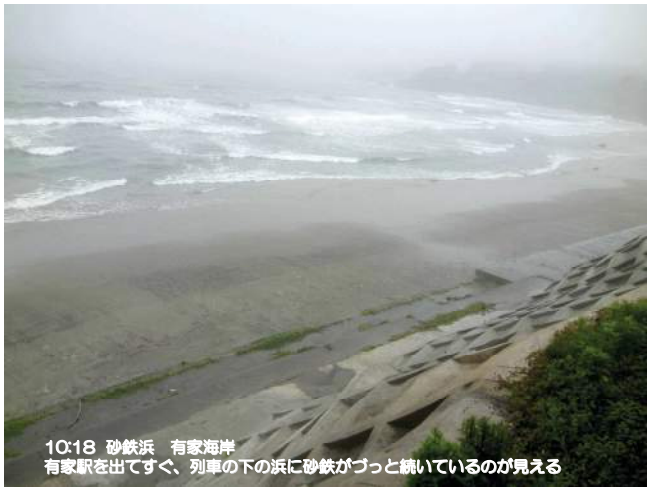
久慈から八戸にかけては日本有数の砂鉄の宝庫
内陸部に砂鉄鉱床があるばかりでなく、沿岸の浜にも砂鉄が堆積し、砂鉄浜が続く。
久慈から八戸へ　三陸沿岸のIron Road 探訪の最後の旅ではこの砂鉄浜を久慈から八戸線に乗って訪ねます

◆ 八戸線車窓から眺める砂鉄浜　洋野町有家海岸
◆ 砂鉄浜　八戸　種差海岸を歩く



10:16　有家駅周辺の海岸
霧雨に煙る浜が見えているが、浜の状態はよくわからず　まもなく有家駅

砂鉄が堆積した浜が続く　有家駅周辺
google写真にも　浜に堆積している砂鉄がよく見える



10:18　砂鉄浜　有家海岸
有家駅を出てすぐ、列車の下の浜に砂鉄がづっと続いているのが見える

10:22　砂鉄浜に沿って北へ走ってきた列車は陸中八木駅へ

10:25　有家駅ー宿戸駅間の砂鉄浜　　宿戸駅のある丘が見えている　2014.6.9.

有家駅ー宿戸駅間の砂鉄浜　　宿戸駅のある丘が見えている　2014.6.9.

岩手/青森の県境　階上岳（岩手県では種市岳と呼ぶ）

10:35　種市駅　岩手県三陸沿岸最北部

洋野町種市
「南部もぐり」潜水技術とウニ漁で有名な街で
種市高校にはこの「南部もぐり」を継承し、工業
系の潜水技術を習得できる学科海洋開発科がある

種市の平内駅・角の浜駅を過ぎると青森県階上駅
で　八戸はもうすぐである

八戸線は種市から北では　海岸より少し陸地側を
走るので　沿岸の浜はよく見えない

10:46　階上駅　青森県三戸郡階上町
ここからはもう　青森県
ウニいちご煮の里の案内板が見える

階上駅の次は大蛇駅 10:57着　そしてその次は八戸市に入って金浜駅
海岸線が見えないのでよくわからないが、「大蛇」「金浜」と続くと製鉄関連地名なのか・・と思えてくる。
でも、「大蛇」は古くからある地名をそのまま駅に。　でも　由来はよくわからないそうだ。
「金浜」と聞くと砂鉄浜に違いない。でも　浜の様子がよくわからず、下車しようかと迷いながら、種差海岸
の「白浜駅」で下車。（当初は鮫駅まで行って　バスで種差海岸に戻るつもりでしたが・・・・）

11:02　岩手県三陸沿岸から青森県陸奥沿岸に入る　2014.6.9.
金浜駅をでると　まもなく線の海浜公園によく整備された海岸線が見えてきて、
八戸の観光地「種差海岸」の一角に入ったと。　鮫駅までゆかず、近くで降りて　浜を歩いてみようと決める。

11:07 種差海岸駅
種差海岸駅に到着したが、駅前はひっそりしたもので、浜も見えない。下車しようと思っていたが、
次が「陸奥白浜駅」とあり、浜に近いと考え、次の陸奥白浜駅で降りて、浜を歩くことにする。

11:10 陸奥白浜駅下車　駅は無人駅で駅舎もなく、細長いプラットホームが一本あるだけ。浜も見えず。
一瞬戸惑ったが、この案内板が浜への道を教えてくれた。　浜に砂鉄があるだろうか・・・・

陸奥白浜駅　写真忘れていてインターネットより

陸奥白浜駅より浜へ降りる道　インターネットより

種差海岸　大須賀海岸・白浜　2014.8.9.
陸奥白浜駅のある段丘の上から東へなだらかな坂道を下って浜に下りると
眼前は広い太平洋の海と長い白砂の浜が南北に広がっていました

白浜から北側へ広く伸びる大須賀浜　砂鉄が堆積して黒ずんでいるのが見える
砂鉄浜　八戸種差海岸 2014.6.9

陸奥白浜　大須賀海岸　2014.6.9
案内板から　一段下の浜へ降りた所に段に沿って
砂鉄が文様を描いているのが見られました。
この種差海岸　白浜・大須賀の浜が砂鉄浜と確認できました

砂鉄浜　八戸種差海岸　2014.6.9.　陸奥白浜　大須賀海岸

白浜から北側へ広く伸びる大須賀浜　砂鉄が堆積して黒ずんでいるのが見える

砂鉄浜　種差海岸　左手山側から白浜から流れ込む川の河口周辺　砂鉄の堆積が多い

砂鉄浜　種差海岸　左手山側から白浜から流れ込む川の河口周辺　2014.6.9.

砂鉄浜　種差海岸　左手山側から白浜から流れ込む川の河口周辺　2014.6.9.

種差海岸の北端　霧雨にかすむ八戸葦毛崎へ　浜に沿う松林が美しい　2014.6.9

種差海岸　白浜　振り返えると　浜の南側　種差・白浜漁港方面　2014.6.9.

11:32　大きな岩の横から　浜の背後の松林の中を走る観光道路へ登り、種差海岸の北端へ
景色を眺めながら、北端の葦毛崎展望台から岬を回って反対側の鮫駅へwalk
降りしきる霧雨　風がないのがラッキー　途中路線バスがあれば・・・・と。

11:35　浜の背後の松林の中を走る観光道路を種差海岸の北端へ
景色を眺めながら、北端の葦毛崎展望台から岬を回って反対側の鮫駅へwalk

砂鉄浜　八戸種差海岸白浜　2014.6.9.

種差海岸 大須賀の浜の北端周辺で　2014.6.9.

種差海岸 大須賀の浜の北端から種差海岸北端で　海岸に続く岩場を眺めながら
北端の岬　葦毛崎へ　2014.6.9

種差海岸 大須賀の浜の北端から種差海岸北端で　海岸に続く岩場を眺めながら
北端の岬　葦毛崎へ　2014.6.9

種差海岸の北端葦毛崎の岬手前から歩いてきた南側の種差海岸を振り返る 2014.6.9.
葦毛崎
現在地
●陸奥白浜

12:03 土砂降りの雨 種差海岸北端の岬 葦毛崎

12:03 土砂降りの雨の中 葦毛崎を回り込んで西側の沿岸を鮫駅目指して下ってゆく

12:25 岬を回り込んで 街並みが続くところまでに下りてくる。 道脇に八戸線の線路も見え、
八戸線もこの岬を並行して回り込んできたとわかる。
どこまで歩くのかとちょっと心配になっていましたが、ウミネコの繁殖地蕪島 そして八戸の港が遠望でき、
八戸線鮫駅も近いと知れ、やれやれです。

12:40 鮫駅到着 13:40まで、八戸行の列車がない。食事でもと鮫街の通りに出ると十字
路の際にバス停があり、13時過ぎに 八戸行のバスが来ると教えてもらった。
八戸の市街地に行く路面バスに乗り、約40分ほどで八戸駅へ

14:00 八戸駅着 これで今日 神戸まで帰りつけると....
八戸駅へは是川縄文遺跡や風張縄文遺跡などを訪ねたり、青森の帰りにも立ち寄ったことがあり、知った街並み。
でも 市街地から 遠くぽっかり浮かぶ種市岳の麓 八戸の沿岸部には行ったことがなく、今回 初めて種差海岸を歩けて
ラッキー。駅前の食堂ビルに入って遅い昼飯。 霧雨の降りしきる街を眺めながら、長かった今日一日 そして、八戸線に
乗っての砂鉄浜を振り返る。 20数年前にこの八戸線にも乗ったのですが、全く記憶なく、八戸線沿いの砂鉄浜 そしてそ
れらを形成した海岸段丘 遠い太古の歴史も知って、今回どうしても行けなかった江戸期南部鉄を支えた内陸部 九戸の
たたらや洋野大野鉄山へ もう一度 久慈・八戸へと。今回は3日間のフルスピード三陸沿岸Iron Roadの旅
結局3日とも霧雨の中の訪問でしたが、これも三陸らしい。
「ビール もう一杯」と満足感にひたりながら、新幹線へ。 やっと来れた震災後の三陸沿岸のIron road でした。
三陸沿岸 街そして生活復興はまだ これから。今回堪間見れた三陸沿岸の姿はしっかり焼き付けた。忘れない。
次に訪れた時には さらに活力のある人々の笑顔・生活が見られることを願って。
これからも忘れず、応援してゆきたい。 2014.6.9. 八戸駅で

久慈から八戸へ 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜 2014.6.9.
◆ 八戸線車窓から眺める砂鉄浜 洋野町有家海岸
◆ 砂鉄浜 八戸 種差海岸を歩く
●八戸駅
●鮫駅
陸奥白浜駅
金浜駅
陸上駅
種市駅
陸中八木駅
有家駅
陸中中野駅
陸中夏井駅
久慈駅
陸中野田駅
洋野町大野
砂鉄浜の海岸線が続く

東北 三陸沿岸の Iron Road を訪ねる 震災後初めて 三陸沿岸を再訪 2014.6.7-6.9
4. 久慈から八戸へ 車窓より眺める久慈・八戸周辺の砂鉄浜 2014.6.9.
◆ 八戸線車窓から眺める砂鉄浜 洋野町有家海岸
◆ 砂鉄浜 八戸 種差海岸を歩く
≪ おしまい ≫
2014.9.15.作成 by Mutsu Nakanishi